



アメリカとヨーロッパ

～米欧関係史～

米欧関係の歴史的構造

1. かつてアメリカはヨーロッパ的なものを排除→アメリカ「劣等感」ヨーロッパ「優越感」
2. 19世紀末の米西戦争でアメリカが戦闘的な国になりアメリカの帝国主義が始まる(欧州と米国の立場に変化) 20世紀アメリカの経済的・軍事的援助による「介入主義」=「国際主義」肯定。
3. WW1終結時、欧州は米国に対する債務国になる
4. ルーズベルト大統領が1941年 武器貸与法を成立
武器の貸与するパートナーがイギリスになる。
アメリカがヨーロッパを経済的にも援助
→アメリカとイギリスが特別な関係

ヨーロッパの期待と躊躇するアメリカ

1. WW2終結後、欧州の復興や冷戦を理由に米国は欧州にコミット→戦後フランスもイギリスも軍事防衛上、米国を欧州の防衛に巻き込みたい
 2. イタリアは枢軸国であまり援助されなかった
 3. 敗戦国ドイツは米英仏ソに占領される。
- 1945～47年の米国の欧州に対する支援金↓

イギリス	フランス	ベルネクス	西ヨーロッパ	東ヨーロッパ
44億ドル	19億ドル	4億3000万ドル	83億ドル	5億4600万ドル

冷戦開始

1. 1945年から46年の米英仏中ソの会談を経て東西間の対立明白
2. 1946年以降アメリカは西欧諸国の連立政権から共産党が離党することを望み、封じ込め政策を行う
3. 1947年アメリカのマーシャル長官によるヨーロッパ支援計画(マーシャルプラン)の演説
この計画の特徴①ソ連や東欧諸国対象の経済的復興
②西ヨーロッパが主導権を握りヨーロッパ全体を援助→ソ連はヨーロッパ一本化に否定的

米欧関係の蜜月時代

1. ドイツが西ドイツ(アメリカ)と東ドイツ(ソ連)で分断される
2. アメリカは西側陣営防衛のため1941年西ドイツ通貨改革に関する米英仏三国協定を成立
1948年米英仏が通貨改革を実施 新たなドイツマルクを発行発表→ソ連反発、ベルリン封鎖
3. 1949年10月ドイツ民主共和国成立
4. アメリカはソ連に対する防衛対策が急務
→1949年4月 ワシントンで北大西洋条約機構(NATO)が欧米12カ国の代表によって調印

パックス・アメリカーナ

1. 1950年代はNATOにギリシャ、トルコ、スペインが加盟し、アメリカと西欧の加盟諸国は対ソ連軍事力の強化が不可欠

→ヨーロッパはアメリカの支援に依存済み

2. アメリカはヨーロッパの統合を支持

理由①冷戦下の状況でヨーロッパが統合するとアメリカの負担や防衛費削減になる

②ソ連に対して「強いヨーロッパ」「西ドイツ」の二重の封じ込めを意味

③ヨーロッパの域内貿易の活発化がアメリカに利益をもたらす

第一次緊張緩和とアメリカの抑止力

1. 1953年 スターリンの死により冷戦一時緩和
1955年スエズ危機とハンガリー動乱で米ソ、
米欧間の軍事戦略的議論は深化
1955～63年 アメリカは核兵器を西ドイツやフラン
ス、トルコ等に配備→核の抑止力
2. 1957年10月ソ連の人工衛星打ち上げ成功
1957年12月 北大西洋理事会で「米国製中距離
弾道ミサイル」を欧州同盟国に配備で合意
→対ソ連関係の抑止力強化と欧州同盟国に
対してアメリカの強い立場を維持

ヨーロッパ植民地大国の凋落

1. 1946年第一次インドシナ戦争(米国がフランスを支援) 1956年7月～57年3月スエズ危機では国連安保理で英仏イスラエル軍の撤収決議
→かつての植民地大国の凋落

2. 1957年「アイゼンハワー・ドクトリン」発表
内容は、米国が中東において共産主義の脅威にさらされた国に対して経済・軍事的支援の約束
→アメリカの真意は中東の石油を中心とする
経済的利権

3. 中東地域の米国支配開始で英国は対米関係の再構築を進め、フランスは対米自立外交へ

ベルリンの壁構築

1. 1958年 ソ連のフルチョフ首相は米英仏の占領軍の西ベルリンからの撤退と西ベルリンを非武装化・中立化し自由都市にする事を要求
→ 第二次ベルリン危機
2. 1961年8月東ドイツがベルリンをバリケード封鎖、同年8月17日コンクリート壁が分割線に築かれる→ 米国がモスクワに抗議書提出
3. キューバ危機で米欧同盟の米国に対する信頼が揺らぐ→ (西独)アデナウアー首相は米国のベルリンの壁構築、キューバ危機への対応に疑念を抱き米国と分かれ、フランスに接近

大西洋同盟の再編成の仕組み

1. 1963年 米国のジョン・F・ケネディ大統領が訪欧→欧州の人々は米欧同盟の深化を期待
2. ケネディが提唱した多角的核戦略構想は核兵器使用のハードルを上げた柔軟反応戦略とセットで、西ドイツは米国が防衛のコミットメントを下げるという懸念が増幅
3. 多角的戦略構想の米国最大の目的は、英仏の核戦力を米国主導のNATOの下で多角的に活用すること。

アメリカのヘゲモニーへの挑戦

1. スエズ危機で対米外交へ進んだ(仏)ドゴールは、1958年アイゼンハワー米大統領とマクミラン英首相にNATOの組織改革と活動範囲拡大の書簡を送る→フランスは自立した核兵器使用要望

2. 1966年(仏)ドゴールはNATO軍事機構からのフランス離脱表明→フランスの「自立」を演出→フランスが離脱してもNATOの活動は停滞せず、結束を促す結果になる

米欧の政治協力の模索と経済摩擦

1. 1967年NATOの北大西洋理事会は、ベルギーのアルメル外相作成の「同盟の将来の課題」を採択
2. 西欧諸国復興の中で米欧摩擦が大きくなる
欧州経済回復で米国との貿易摩擦が起こる
「鶏肉戦争」「チーズ戦争」「鉄鋼戦争」
3. 米国は財政悪化を理由に西ヨーロッパからの軍撤退と軍事力削減に傾く←(西独)エアハルト政権は米国に「思いやり予算」を出す
→(西独)アデナウアーの親フランス的外交放棄

デタント(緊張緩和)の時代

1. 1962年キューバ危機解決による東西間の長期軍事デタント到来

米ソ間のデタントは米欧関係の不安定を増幅

2. 英国が「欧州宣言」構想を進める→東欧諸国との意見違いにより断念

3. (西独)ブラントが「東方政策」開始

→(米)ニクソン大統領は東方政策に懸念

4. 1970年 モスクワ条約

1973年 両ドイツ国連加盟

東方政策について論争があったが米欧同盟諸国は状態静観→新しい価値観の時代へ

デタント時代の到来と発展

1. 1960年代末～1977年 米国のリーダーシップの衰退(ニクソンショック、日本の経済的台頭)→米国後退で米ソ二極支配から米中ソの軍事的三極構造になる

米欧日は経済的三極構造

2. 1973年6月 米ソ首脳会談で核戦争防止協定調印

→米ソ接近は中国台頭に対する米ソの懸念

→欧州は米ソの緊密化を危惧

米欧関係の再調整

1. (米)キャッシンジャーによる「1973年はヨーロッパの年」宣言→この宣言をしたが米国は欧州に対する覇権的姿勢を表す
2. 1979年(米)カーター大統領は「関税及び貿易に関する一般協定東京ラウンド」成功→欧州はカーター政権に好感
→カーター政権は、政権方向性の一貫性に欠けたように見え、さらに中性子爆弾開発を提唱した事に対し、欧州は懐疑的なる。

新冷戦

1. 1979年 米・英・仏・西独首相はINF配備とソ連との軍縮交渉を結び付けて提案で合意

2. 1979年 ソ連のアフガニスタン侵攻

→ 米国、NATO同盟国はソ連を非難

3. 1981～1983年 (米)レーガン政権は強硬外交

1979年英国で初の女性首相になったサッチャーと1981年 フランスの大統領になった

ミッテランは、米国と良好な関係を目指す

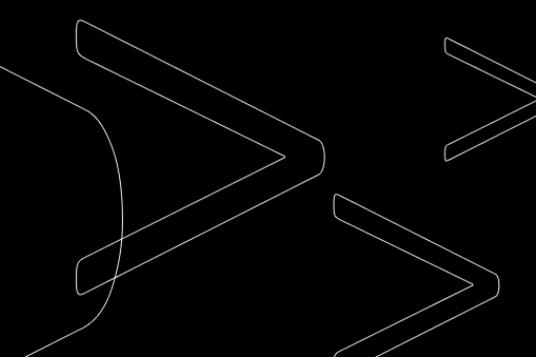
1983年米国の戦略防衛構想にフランス反対

冷戦終結への序曲

1. 1985年 ゴルバチョフがソ連の共産党書記長に就任 (ソ連の指導者交代)
(ソ連)ゴルバチョフは国内改革と国際紛争解決のための武力不行使を決定
2. 1986年 チェルノブイリ原発事故が米ソの接近を促す (核廃絶で実質合意)
3. 1987年 (ソ連)ゴルバチョフはINF撤廃の提案 (核ミサイルの完全撤廃)
→冷戦終結への動き

冷戦終結後のNATO

1. 1989年11月9日 ベルリンの壁崩壊
1989年12月 マルタ会談で「冷戦終結」宣言
2. 西独基本法二三条に基づき、東独が西独に編入される形でドイツ統一
統一ドイツはNATOにとどまる
3. 1990年 イラク軍が隣国クウェートに侵攻
「湾岸戦争」→米国中心の多国籍軍がイラク軍を攻撃し勝利
冷戦終結後の西側の勝利は米国の一極支配への道を開く



漂流する米欧関係とアメリカ

1. 冷戦終結後、米国は大西洋防衛における欧州の自立に対する懸念を表明
米欧関係は、価値観や国際秩序観を共有するが取り組み方が異なる
2. 1994年 NATOブリュッセル首脳会議で米欧間で防衛上の役割分担を確認
3. 1993年(米)クリントン大統領就任 → 国際協調を基調とする外交だったが、単独行動主義的な外交へ

9.11の衝撃

1. 2001年9月11日 同時多発テロ
NATOはこのテロをNATO同盟国全体へのテロと見なし、集団的自衛権を発動
2. 2001年10月7日 米国は英仏独加などの諸国と、テロ首謀者の基地があるアフガニスタンへの攻撃「不朽の自由作戦」決行



「アメリカの戦争」—冷戦後の覇権誇示

1. 1998年 米英空軍のイラクに対する空爆
→アラブ諸国、中国、ロシアがアメリカを批判
イラクへの対応で米欧諸国間で認識の違い
2. 2003年 国連と国際原子力機関がイラクに
大量破壊兵器査察を行ったが、大量破壊兵器
は発見されなかった→米国は国連の決定
なしに、2003年イラクへ攻撃

イラク戦争の米欧対立

米・英・スペイン VS 独・仏・伊・北欧諸国

米欧蜜月時代は続くのか

1. 2009年 オバマ大統領就任
→ 欧州はオバマ大統領に好感
2. オバマ政権は前大統領ブッシュ政権と
逆で、イラクからの米軍撤退、アフガニスタン紛争終結を掲げる
3. 2012年 米国の「アジアへの旋回」政策、
米国の中国への接近 → 「ヨーロッパ離れ」
ウクライナ問題でロシアを米国が批判
→ 欧州にとって「アメリカのヨーロッパ回
帰」

～結び～「協調と対立」構造の中の同盟

1. 2017年トランプ大統領就任→トランプの排外主義かつ孤立主義に欧州は警戒
トランプ政権では、米欧摩擦が大きくなる

米欧同盟は「力の不均衡な同盟関係」
米欧関係は常に同じ状態ではなく、米欧間の対応の違いがある→米欧は決定的な決裂は望まない関係

